

研究会報告

第 35 回  
東京医科大学内分泌代謝研究会

日 時 : 平成 7 年 6 月 6 日 (火)  
午後 5 : 00 ~  
会 場 : 東京医科大学病院 研究教育棟 3 F  
第 1 臨床講堂  
当番教室 : 脳神経外科学教室

1. 高脂血症合併妊娠の一例

(産婦人科, 内科学第 3\*, 都立荏原病院内科\*\*)

野平知良, 石川哲夫, 高田淳子, 牧野秀紀, 高山雅臣,  
三輪 隆\*, 金沢真雄\*, 能登谷洋子\*, 添田 仁\*\*

正常妊娠時、コレステロールは妊娠早期より分娩終了まで上昇し、また、トリグリセリドは妊娠後期から上昇するといわれている。今回我々は、妊娠前には正常値を示していたコレステロール、トリグリセリド値が、妊娠後期に急激に上昇し、高脂血症合併妊娠が疑われた症例を経験したので、これを報告する。

症例は29歳。0経妊0経産。最終月経；平成5年10月より7日間。近医にて妊娠指摘され、外来通院となった。妊娠38週時に生化学検査にて血清総コレステロール、トリグリセリド値の異常高値を指摘され、翌日、妊娠39週0日で、当院紹介となった。来院時の生化学検査にて血清総コレステロール；1018mg/dl (正常；132~252mg/dl)、トリグリセリド；4880mg/dl (正常；38~193mg/dl)と異常高値を示したが、妊娠前には健康診断等でも異常は指摘されなかった。即日入院となり、低脂肪食で栄養管理を開始し、平成6年7月、3372gの男児を正常分娩した。分娩後、総コレステロール；341mg/dl、トリグリセリド；889mg/dlと低下傾向を示した。

2. 未知の胎盤蛋白の同定と機能解析

(産婦人科)

弓立 環, 鈴木良知, 井坂恵一, 保坂 真, 白石賢也,  
清水緑子, 野平知良, 高田淳子, 奥石 真, 高山雅臣

【目的】胎盤蛋白PLACENTAL PROTEINS(PPs)の同定と各種産科婦人科臓器、および悪性腫瘍における発現を検討した。

【材料、方法】材料は正常胎盤、サイトトロホプラスト、正常子宮内膜、子宮頸部、卵管由来の上皮、およびそれぞれの間質由来初代培養細胞に加えて子宮内膜癌、子宮頸癌、卵巣癌、絨毛癌由来細胞株を用いてmRNAを抽出しRT-PCRによりPPsの発現を検討した。発現に特徴のあったPPs に関してはモノクローナル抗体を作成し、その塩基配列を決定した。

【成績】胎盤由来S-100PであるPP19は、正常卵管上皮や正常子宮内膜では発現が認められず、正常子宮頸部扁平上皮由来組織、および扁平上皮癌由来細胞株に多くの発現を認め、より分化傾向のある組織に発現を認めた。またPP26のアミノ酸分析の結果、第280-300アミノ酸において100%の相同性が認められgranulin precursorであることが判明した。この蛋白はトロホプラストの浸潤に関与している可能性が示唆された。

3. ゴナドトロピン処置未成熟ラットの卵巢ホルモン

レベルに対するデキサメタゾンの促進作用機構

(東京薬科大学 第2薬理学) 向後 博司

過去に、未成熟雌ラットにゴナドトロピン(eCG)とデキサメタゾン(DEXA)を併用投与するとeCG単独投与以上に血中の卵巢ホルモン(インヒビンとエストラジオール)レベルが増大することを見出し報告した。本研究は、この作用機構の解明を目的に行われた。初排卵が5IUのeCGで誘発された時、ホルモンレベルの増大と同様に、排卵数はDEXAの併用により増加した。しかし、DEXAを10IUのeCGと併用した時にはホルモンレベルの増大も、排卵数の増加も観察されなかった。この時の血中FSHレベルは5と10IU共にDEXAの併用により増加が認められた。一方、ブタ卵液でFSHを抑制した時、卵巢ホルモン分泌促進作用が消失した。また、下垂体摘出ラットでも、eCGとDEXA併用による卵巢ホルモン増大作用は見られなかった。さらに、DEXAは腎皮膜内下垂体移植一下垂体摘出ラットの血中FSHレベルを増大した。

以上、DEXAの卵巢ホルモン分泌促進作用は下垂体直接作用によるFSH分泌促進の結果であることを示している。